

大江山地域 第4回ワークショップの概要

1. 評価軸(案)について

(1) 評価軸(案)全般について

「課題解決の狙い」は「評価軸(案)」がもとになっているが、全体的に評価軸(案)の文言が漠然として分かりづらいため、具体的にしたほうがよいのではないか。

- 全体的に評価軸(案)の文言が漠然としていて意味が分かりづらいため、具体的にしたほうがよいのではないか。
- 「課題解決の狙い」は、「評価軸(案)」が元になっているが、「評価軸(案)」が全体的に曖昧な文言であることから、「評価軸(案)」をまずは見直してほしい。

(2) 課題解決の狙いごとの評価軸(案)について

① 地域のまとまりや一体感を形成する

- 住民同士が交流できる居場所は確保しているか

「居場所」だけでは分かりづらい。「目的に合った部屋の様式と備品が整っているか」を加えてはどうか。

- 「居場所」だけでは分かりづらい。イステーブルなのか、座卓で座布団なのか、膝が痛い人などはどのような備品がある部屋なのかは気になるポイントであるため「目的に合った備品があるか」を加えてはどうか。

- バリアフリー施設となっているか。

「バリアフリー」というと、床が平らなイメージしか浮かばない。具体的に「多目的トイレや階段の手すりなどを備えたバリアフリー施設になっているか」としてはどうか。

- 「バリアフリー」とは床が平らなイメージしか浮かばない。具体的に「多目的トイレを備えたバリアフリー施設になっているか」としてはどうか。
- 農改センターは高齢者の利用が多く、トイレや階段が一番使いづらくて困っている。

- 多世代が交流できるスペースは確保されているか。

- 幅広い年代が使える施設となっているか。

「多世代が交流できるスペース」というと、若者と高齢者が交流することが前提と捉えてしまうので、「多世代が使えるスペースになっているか」「多世代が交流しやすい安心・安全な見通しのよいスペースになっているか」としてはどうか。

- 評価軸(案)にある「多世代が交流できる」は、若者と高齢者が一緒に何かやる前提で考えられていると受け止められるので、「多世代が使えるスペースになっているか」「多世

代が交流しやすい安全・安心な見通しのよいスペースになっているか」としてはどうか。

● 地域の拠点施設として活性化は見込めるか。

WSを重ねてきたが、何をもって「拠点」というかについて、評価軸に入れるには議論が足りない。

- WSを重ねてきたが、何をもって「拠点」というかについては、議論が足りない。

②子育ての環境、若者や高齢者の居場所をつくり、地域を活性化させる

● 親子が集えるスペースは確保されているか

「若者や親子が来たいと思える場所(設備)になっているか」も評価軸として加えたい。今後利用率を上げるためには若い世代が利用できる場所にしていくことが必要だ。

- 若者や親子が来たいと思える場所(設備)にすることも評価軸に入れられないか。
- 50年住んでいて、農改センターは子どもの頃の映画鑑賞と選挙、地域の会議や農家関係の会議の利用だけで、それ以外利用したことがない。

● 若者が過ごしやすい居場所・学習スペースは確保されているか。

「若者」はどの年代をさすのか曖昧。「過ごしやすい」という定義も人によって異なるだろう。これまでのWSで話し合った経緯から、「学生のための学習スペースが確保されるか」としてはどうか。

- 「若者」は学生、20代、30代のどの年代をさすのか曖昧。「過ごしやすい」という定義も人によって異なるだろう。これまでのWSで話し合った経緯から、「学生のための学習スペースが確保されるか」としてはどうか。

③過度な財政負担が将来世代に残らない

● 施設運営コストは削減されるか

● 維持更新費用は削減されるか(改修・改築費)

農改センターの施設運営コストは約1千万円のうち、約5百万円が水道光熱費や建物管理費、残りの約5百万円が人件費ということだが、下げられるのか。例えば、光熱費の節約が活動の縮小になってしまわないか。評価軸には具体的に何のコストが削減されるべきかを入れてほしい。

- 農改センターの施設運営コストは約1千万円のうち、約5百万円が水道光熱費や建物管理、残りの約
- 5百万円が人件費だということだが、下げられるのか。例えば、光熱費の節約のため、夜間は消灯して部屋は使わせないなど、活動の縮小になってしまわないか。具体的に何のコストが削減されるべきなのかを入れてほしい。

④既存の建物の有効利用、利用率を高める工夫、利便性向上を図る

● 多用途に利用できる施設になっているか

「多用途に利用できる」に、販売行為は含まれるのか。「安心・安全な経済活動ができる場になっているか」にしてはどうか。

- ・ 高齢者のサークルや子どもたちが作ったものを売るといった販売行為はできるのか。悪徳商法には注意したい。「安心・安全な経済活動ができる場になっているか」にしてはどうか。

農産物などの販売は大江山地域内に店舗や事業所があり、農改センターや憩の家で経済活動をする必要はないと考えるため、評価軸(案)はなくてよい。

- ・ 農改センターはいろんな使い方があっていいと思うが、朝市などの農産物を販売する場所は大江山地域内に店舗や事業所があるので、経済活動をする必要はない。評価軸(案)はなくて良い。
- ・ 第1～3回WS意見で出た「大江山の農産物を販売する朝市ができるスペースや、地区内の店舗や事業所が経済活動を行える場所を農改センターや憩の家に確保してほしい。」に違和感を持った。
- ・ 経済活動をする場所を農改センターにつくることが再配置案と本当に関係するのか、疑問がある。

「新しい技術で生活を便利にする(IT・暮らし)」は重要な軸になるべきだと思っている。

- ・ 「新しい技術で生活を便利にする(IT・暮らし)」は重要な軸になるべきだと思っている。

● アクセスしやすい施設配置となっているか。

アクセスのしやすさは住んでいる場所により異なるため、どのように評価するかを表現に入れてほしい。

- ・ 住んでいる場所によって異なるため、どのように評価するかを表現に入れてほしい。

アクセスしやすい施設配置とするためには、自動車以外の交通手段の確保が必要だが、現時点で公共交通などの手段が少なく、評価軸にするのは無理がある。

- ・ アクセスしやすい施設配置という言葉は外さないほうがよいが、評価軸に入れても実現できるのかわからない。
- ・ 農改センターをアクセスしやすい施設配置とするには、子どもでも高齢者でも行ける自動車以外の交通手段の確保が必要。公共交通などの手段が少なく、評価軸にするのは無理がある。

- 歩いて行ける場所に集まれる施設はあるか。

農改センターから遠い所に住んでいる高齢者や若者は、この施設には来ない。評価軸に入れなくてよいのではないか。

- 農改センターから遠い所に住んでいる高齢者や若者はこの施設には来ない。評価軸に入れなくてよいのではないか。

⑤災害に強く安全な地域をつくる

- 安心して生活するため、災害時に避難できる施設はあるか。

次代の農改センターを避難所にするのもよいと思うが、ハザードマップなどを見直し、情報を整理した後に検討することになるので、今回は評価軸に入れる必要がない。

- 次代の農改センターを避難所にするのもよいと思うが、ハザードマップからすべて見直し、整理した後に検討することになるので、今回は評価軸に入れる必要がない。

- 地域に備蓄倉庫は整えてあるか。

避難所に指定されていない農改センターに整備することを討議することはナンセンスだ。「災害に強く安全な地域をつくる」を評価軸に入れる必要はない。

- 小・中学校は避難所指定されているが、農改センターは避難所に指定されていないため、農改センターを評価する必要はない。備蓄倉庫云々と討議することがナンセンスで資料に記載があること自体がおかしい。指定避難所に備蓄倉庫を置くべきだ。

2. 再配置案について

(1)再配置案全般について

農改センターには予約なしで気軽に立ち寄り、誰かと会ったり、何もせずに個々にのんびり過ごしたりできる場所がほしい。

- 予約なしで気軽に立ち寄れる場所は必要だ。
- ぼーっと過ごしても構わない場所もほしい。
- 家では一人であるが、農改センターに来ればみんながいるからいい。
- 地域のお茶の間のように誰かが世話を焼くことなく、個人個人で過ごせるような場所もほしい。

子どもや若者、子育て世代などが利用できる設備を整える必要がある。

- 屋外に、公園のような遊具がなくても子どもが遊べる場所もほしい。
- 今後利用率を上げるためには若者が利用できる場所にしていくことが必要だ。
- ジムやクライミング、Wi-Fi 環境など、子育て世代が利用できる設備を整えることが必

要だという話が前回出ていた。

農改センターは靴を脱ぎ履きしなくてもいいように土足で出入りできるようにしてほしい。玄関マットを置くなど、床が水濡れや汚れで滑らないよう工夫してほしい。

- 靴の脱ぎ履きは手間がかかり、難しい人もいる。玄関マットを敷いて水分を取るなどすれば土足は可能である。
- 農改センターは雪の日などに、長靴のまま入って玄関が滑って危険だったことからスリッパに履き替えになった経緯がある。長靴を外で洗えるようにするなどして滑らない工夫をしてほしい。

農改センターに貸し出し用の車いすなどが備え付けられるとよい。

- 貸し出せる車いすなどが備え付けられるとよい。

農改センターの貸室を、間仕切りで広さを可変できる構造にしてほしい。

- 農改センターの貸室を間仕切りのない大きな空間にもできる(可変できる)構造にしてほしい。

農改センターの料理実習室は必要だが、調理台は利用する頻度が少ないのもっと少なくて良い。

- 調理台の数は昔と違って、利用する頻度が少ないのもっと少なくて良い。

農改センター内にシャワー室を整備することは、運動後の利用に留まらず、災害時にも絶対に必要なので欠かせない。

- 農改センター内にシャワー室を整備することは、運動後の利用に留まらず、災害時にも絶対に必要となるものであり欠かせない。

大江山地区図書室の廃止について、親子での利用を考えると子ども用図書だけでも残してほしい。

- 図書室の廃止について、親子での利用を考えると子ども用図書だけでも残してほしい。

農改センターにITの環境を整えることは非常に大切だ。子どもたちはIT利活用が普通になっている。ITを利用したい人たちが集まる場になるとよい。

- IT利活用を除いた施設ができて、今後の利用率の伸びが全く期待できない、誰も寄り付かない施設になってしまう。
- ITは、高齢者を含めて世界的に普及が進んでいるため、今一番大事な視点だと思う。

IT化を除いた施設は時代にそぐわないと感じている。

- インターネット環境を整えることは非常に大切だ。
- 家にIT機器がない人もいるが、世の中がだんだんと変わってくれば、使わなければならなくなることは予想できる。
- 子どもたちにとってはIT利活用が普通になっている。
- ITを利用したい人たちが集まる場になればいい。

インターネットで農改センターの利用予約を可能するなどのIT化を進めるには、スマートフォンやタブレット端末を持たない人や、利用できない人へのフォローが必要である。

- ITは必要で大切なことだが、使ったことがない人もいる。ITなどの機能を持たせるのはなるべくしななければならないのだろうが、利用できない人をどのようにフォローするかが課題となる。
- スマートフォンやタブレット端末などの使い方を無料で教える機会を整備していかなければという話が出ている。
- 行政等の予約など、何をするにも「インターネットで申し込むように」と言われても対応できない人がいる。公共施設に教えてくれる人がいれば、できるようになると思われる。家に機械がない人は農改センターに来て予約などをすればいい。
- 年金生活者はIT利活用ができないまま、置きざりになる可能性もある。所得に応じた対応も考えてほしい。
- 使い方が分からない人や機械を持たない人をどうフォローするかを考えて対応しなければならない。

新潟市はIT化まで手が回らないのではないかと。フリーWi-Fiなど設備の維持管理費も必要になる。

- 新潟市はお金がないのでITまで手が回らないと思われる。フリーWi-Fiなどの設備の維持管理費も月々お金がかかる。

屋外で経済活動を行うことを想定しているのなら、駐車場などの広いスペースで行えると思う。

- 農協などは駐車場で朝市を行っている。建物内でなくても可能だ。
- 経済活動は建物に関係なく、駐車場等の広いスペースで良い。資料を見ると箱物の大きさが示されている。経済活動は屋外で行うという発想なのかという気がした。

農改センターは指定避難所ではないので災害用倉庫(備蓄倉庫)は必要ない。

- 災害用倉庫(備蓄倉庫)は指定避難所ではないので不要。

農改センターを災害時に避難できる場として、市民の認識を高めたい。

- 災害時に避難できる場としての認識を高めたい。

物資や備蓄をたくさん搬入することが可能な中央卸売市場を避難所として利用できるようにしたい。

- 物資や備蓄品をたくさん搬入することが可能な中央卸売市場を避難所として利用できるようにしたい。

備蓄倉庫は農改センターに置かず、指定避難所である、大江山中学校、丸山小学校、大淵小学校に置くべきだ。

- 備蓄倉庫は中学校にはない。中学校に置けないから農改センターの 2 階に置いてあるが、消防団員も知らない。災害になった場合に誰がどこに運ぶかは決まっておらず、指示もない。農改センターに備蓄倉庫があっても意味がない。
- 中学校に備蓄倉庫を置くスペースを作るべきだ。
- 指定避難場所は 3 か所ある。大江山中学校、丸山小学校、大淵小学校の指定避難所が備蓄倉庫を引き継ぐべきだ。

現在 AED の設置場所は農改センターの施設内にあるため、施設利用時間外の緊急時には対応できない状況である。これを機に設置場所の再検討も必要である。

- 現在 AED の設置場所は施設内にあるため、施設利用時間外の緊急時には対応できない状況である。これを機に設置場所の再検討も必要である。

農改センターには太陽光発電設備が必要だと思う。電力を自給できて省エネであり、災害時も役立つ。

- 太陽光発電を行える設備が必要である。なぜなら社会全体がそうした省エネの方向にあるため、この大江山も電力を自給できる方向で考えていくことが重要である。これは災害時にも大いに役立つものと考えている。

憩の家は利用者の減少や灯油代の高騰を踏まえ、廃止はやむを得ないと思うが、先代の思いを引き継ぎつつ、設備改修が困難になるまで、できるだけ長く存続していきたい。

- 憩の家の利用者が少ない現状ではやむを得ないけれど、延命は長くしていきたい。
- 憩の家の建設経緯からの先代の資産を引き継いでいくべきである。
- 灯油代の高騰で憩の家の運営が大変であるので、廃止はやむを得ない。

農改センターの利用は、特定のサークルや人に固定されることなく、誰でも使いやすい施設の運営を行うといった住民サービスの視点を大切に、官民協働でソフト面の見直しが不可欠である。

- 計画案が固まった暁には、ソフト面の充実を図るための「協議の場」を官民協働で持つ必要がある。
- 利用者は誰でも利用枠の制限なく利用できるといい。
- 特定のサークルなどの利用が固定されてしまっているため、初めて利用する方や飛び込みで利用したいという人たちが利用しにくい雰囲気になってしまっている。これは多目的ホールその他、図書の貸し出しについても同様のことがいえる。ハードのみならず、こういったソフト面(利用申込みの方法や地域住民への広報内容など)の見直しが不可欠である。
- 今後新しい利用が増えてきたり、他地域の人の利用があつたりした場合の対応などを考えておく必要がある。また公民館行事の企画を行う担当職員をどういった形で配置するかも検討する必要がある。
- 誰もが使いやすい施設の運営を行うといった住民サービスの視点を大切にしてほしい。
- 幅広い世代が利用しやすいように、農改センターの名称を変更する。農村環境改善でなく大江山地区センターで良いのでは。

農改センターの利用率を上げるために、自動車以外の交通手段を考える必要があり、区バスなどの公共交通を検討してほしい。

- 利用率を上げるには自動車以外の交通手段を考えることが一番だ。子どもと高齢者の交通手段を考えなくてはならない。
- 現状では農改センターを利用するための公共交通の利便性が高くはない。利便性が高まらないと施設利用率は高まる要素がない。
- 農改センターまで、アクセスしやすい区バスなどの交通インフラを整えることも併せて検討してほしい。

(2)案Aについて

農改センターの駐車場を広くして増やしてほしい。

- 現状のままだと駐車場が狭いので広くしてほしい。
- 駐車場を増やしてほしい。

(3)案Bについて

農改センターは多目的ホールを存続させ、大勢で集う場所が広く確保されるのがよい。

- 多目的ホールが残るのは良い。
- 多目的ホール(560㎡)を存続させる。大勢の地域の人が交流する場所や行事を行う場所が確保されることが一番良いところだ。
- 若者・親子・高齢者の居場所などが広く取れて非常に良い。部屋の機能については納得できる。

農改センターの多目的ホール以外を新しく建て替えた方が、ワクワク感があり、住民が納得しやすいのではないか。

- 資料を見ると多目的ホールの他は大規模改修か建て替えという表記になっているが、建て替えた方が新しくワクワク感があり、住民が納得しやすいのではないか。

農改センターは現状の面積を維持できるとよいが、難しいようなら多目的ホールを残してほしい。

- 今の建物の現状面積を維持する方が良いが、ダメであれば多目的ホールを残すことを優先することがよい。

農改センターは今の施設をコンパクトにして使うことになるのでそんなに悪くないと思う。ホール以外を新しくするのも良さそうだ。

- 今の施設をコンパクトにして使うことになるのでそんなに悪くはないと思う。
- 小さくなる印象だが、これもアリだと思う。ホール以外を新しくするならこれでも良さそうだ。

農改センターは全体の大きさが案Aの3分の2くらいで、必要な機能を備えているが、かなり狭くなると思われる。倉庫などのスペースも含まれるため、活動に使えるスペースが十分に確保されるのかを確認することが必要だ。

- 面積が小さくなることにより、部屋や利用の仕方で足りなくなることが生じるのが心配である。
- 全体の大きさが案Aの3分の2くらいになっても必要な機能があるが、かなり狭くなると思われる。共用スペース自体の大きさに加え実際には倉庫なども必要になるため、もう少し大きさが取れるようになっていなければうまく機能しないかもしれない。

農改センターは利用率が低い部屋は集約してよい。

- 利用率が低い部屋もあるので、貸室の数が減ることは納得できる。

- ・ 利用率が低い部屋は集約することでよい。

高齢者への対応を考えると農改センターは平屋がよい。

- ・ 高齢者への対応を考えると平屋が良い。

文化祭などの際に駐車場が足りないので、農改センターを減築した分は、駐車場として利用してはどうか。

- ・ 施設面積が3分の2に減った分、駐車場を広げることは可能か。
- ・ 壊したところを駐車場にしないと文化祭などの際に車の置き場がなくなる。

農改センターの建物を減築した分の跡地は公園などに使えそうだ。

- ・ 壊した跡地を公園のようなもので使えそうだ。

農改センターの多目的ホール以外の部屋は、利用者の声を聞いて具体的に機能や使い方を想定していく必要がある。

- ・ 多目的ホール以外の部屋の使い方など計画の詰めが必要。いろいろな意見があり、設計の段階で利用者の意見を聞いていく必要がある。
- ・ 部屋の数を決めれば良いという話ではなく、実際の部屋の使い方の想定をすることが必要である。今後検討が必要な内容である。
- ・ 今ある部屋の機能(調理室など)を重視した新しい建物としてほしい。
- ・ 各室の検討は今後、設計の段階で行っていくことになるが、必要なことがあれば協力していく。

(4)案Cについて

農改センターの多目的ホールは、利用率がもっとも高く、必要不可欠。他で補うことはできない。

- ・ 案Cは多目的ホールがないので向かないと思う。地域に多目的ホールは必要不可欠だからだ。
- ・ 多目的ホールがなくなるのは困る(ホールの利用率が一番高い)。
- ・ 多目的ホールがなくなると、他の地区へ行ってスポーツをする必要が出てくる。
- ・ 老人クラブが中学校の体育館を使うことは駐車場の問題で無理なので、多目的ホールを残す。
- ・ 他の地区において、コミュニティ施設に多目的ホールの新築はないので、建て替えの場合は体育館としてのホールを設置するのは難しいだろう。

狭いホールは使いづらいと思うが、若い世代は狭くても新しくておしゃれな建物がいいかもしれない。これから利用する 20 代、30 代の若い世代の意見を聞いて再編案に反映させてほしい。

- 狭いホールを若い世代に残しても、使いづらくて困るのではないかと思う一方で、今時の若者は狭くても新しくておしゃれな建物のほうがいいというかもしれない。WS に 20 代、30 代など若い世代の参加者がおらず、声が聞けていないため、オープンハウスなどを活用して若い世代の意見を聞いて反映させてほしい。

多目的ホールがなくなるとこれまでやっていた地域イベントやこれから開催する地域イベントの会場を新たに探す必要があるが、どこが使用可能なのを知りたい。また高齢者がその場所まで移動するための手段が確保できるかも心配である。

- 多目的ホールがなくなるとこれまでやっていた地域イベントやこれから開催する地域イベントの会場を新たに探す必要があるが、どこが使用可能なのを知りたい。また高齢者がその場所まで移動するための手段が確保できるかも心配である。

多目的ホールがない分、コンパクトな印象だ。貸室やロビー等の広さは案Bの多目的ホールを除いた部分と変わらないのではないかな。

- 多目的ホールがない分、コンパクトな印象。
- 使えるスペースというのは B 案とそう変わらないのではないかな。

農改センターを新築する場合は、部屋の壁を可動式にして広く使える部屋にしてほしい。

- 新築の場合は広い部屋を区切って使用するなど、広い使える部屋は必要である。

高齢者への対応を考えると農改センターは平屋がよい。

- 高齢者への対応を考えると平屋が良い。

(5)その他

自治会集会所が狭いところは、農改センターや亀田の公民館を使う場合もある。

- 自治会の活動で、自治会集会所が狭くて、農改センターを使っている自治会もある。また、地域的に近い亀田の公民館を使う場合もある。

3. 検討の進め方について

再配置案ごとに意見を求められても、中身の詳細が示されていないため、とても意見が出しづらい。

- どの案にするかということであれば考えやすいが、今回のような案ごとに対しての意見を求められても中身の詳細が示されていないため、とても意見が出しづらい。

案Cはどのような建物になるのか、文字情報だけではイメージが湧かない。

- 案Cはどのような建物になるのか、文字情報だけではイメージが湧かない。

新しくなる施設について考えるために、近隣の同様施設を見学したい。

- 今後の新しくなる施設を考えていくうえで近隣の同様施設を見学したい。

話し合いが面倒だと感じている。一方で住民が何もしなければ遅れた地域になるだろう。

- 農改センターを往復するバスもないし、集まって話し合いをすることが面倒くさいと感じている。
- 面倒くさいと感じていたとしても、なんらかの方向性は必要だから話し合いの場がある。住民が何もしなければもっと悪くなる。投げっておけば遅れてしまう地域になることは確かだ。

話し合いはやめたらいいと思う。私たちが一生懸命意見を出しても、結局は市が決めることだ。

- 話し合いはやめたらいいと思う。こんなふうに、私たちが一生懸命しても、結局は市が決めることだ。